

2022 年度
点検評価報告書

聖学院みどり幼稚園

1. 聖学院みどり幼稚園の教育目標

「神を仰ぎ 人に仕う」を聖学院全体の建学の精神(School motto)とし、「神さまの愛の中で、人と関わりながら、生きる力を育む。」を聖学院みどり幼稚園の教育の目標として、聖書が証しする神さまの言葉に耳を傾け、祈りつつ、「神と人ともに愛され、自主性を持ち、自発的に行動できる子どもを育てる」ことをめざします。

そのため本園では、具体的な教育課題として次の7項目を掲げています。

1. 遊びを通して子ども達の心身の成長(非認知的スキルの育成)をうながしていく。そのために、豊かな経験と知識を持った教員が子ども達の状況を適切に把握し必要な支援を行う。
2. 子ども達自身が個性を伸ばし成長できるための環境作り(個々の興味関心を満たす用具・遊具・自然などが十分に提供される)を重視する。
3. 広い園庭の中、たくさんの草花や樹木や小動物達など豊かな自然に触れ、いのちの大切さと素晴らしさを自らの身体で知る。
4. 礼拝を通して、一人一人には異なる個性と賜物があり、全ての者が神さまに愛されている存在であることを知ると共に、他者のために祈る心を養う。
5. 幼児・児童に対する英語教育の専門家であるネイティブ教員による「英語の時間」や、外国人留学生達との交流を通して様々な文化に対する理解を深める。
6. 音楽や自然体験・文化体験など可能な限り本物に触れることをめざした様々な活動を通して、自身の国の歴史や文化を知り、味わう。
7. 家庭との連携を密にすることにより、子育ての教育環境を整え、また子どもの幼稚園時代にしかできない経験を通して保護者自身も子ども達と共に成長していく。

2. 年間保育目標

2022年度年間保育目標:「神さまの愛の中で、人と関わりながら、生きる力を育む。」

2022年度聖句:「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。

どんなことにも感謝しなさい。」

(新約聖書 テサロニケの信徒への手紙一 第5章16～18節)

	健康の生活	交わりの生活	探求する生活	表現する生活
年少児	<ul style="list-style-type: none"> 身体を使って遊ぶ事を楽しむ。 身のまわりのことを自分でしようとする。 みんなと一緒に弁当やおやつを食べることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 神様に愛されていることを知る。 友だちと一緒にいることを楽しみながら生活する。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろなことに興味を持ち、やってみる。 喜んで神様のお話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ありのままの自分を表す。 自分の気持ちを言葉で伝えようとする。 歌ったり、描いたり、作ったり身体を使って表現することを楽しむ。
年中児	<ul style="list-style-type: none"> 自分の力を充分に使って遊ぶことを楽しむ。 身のまわりのことを自分でする。 食べ物を与えてくださる神様に感謝し、友だちと楽しく食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 神様に愛されていることを知り、喜んで讃美し祈る。 友だちに関心を持ち、一緒に生活することを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 神様やイエス様のことについて知る。 身のまわりの出来事に興味や関心を持つ。 考えたり、工夫することを楽しみながら、自分でいろいろやってみる。 身近な自然に触れ、楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ありのままの自分を表す。 自分の思いを言葉やいろいろな方法で伝える。 いろいろな表現の仕方があることを知り、共に楽しむ。
年長児	<ul style="list-style-type: none"> 健康や清潔の習慣をすすんで身につけ、生活の仕方を知る。 工夫したり試したりしながら、自分の力を充分に使って、思い切り遊ぶ。 食べ物の大切さを知り、感謝して友達と楽しく食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 神様に愛され、守られていることを知り、喜んで讃美し祈る。 いろいろな人の考えや気持ちが分かり、共に生活する。 一つのことをみんなとやりとげる喜びを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 神様やイエス様のことについて知り、関心を深める。 いろいろなことに関心を持ち考えたり、調べたり、工夫したりすることを楽しむ。 自然の変化を感じ、動植物と共に生活することを楽しみ、生命の大切さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 感じたり、考えたことを言葉で伝え合う。 いろいろな表現の仕方を経験し、自分の思いを表す楽しさを知る。

3. 2022年度の目標や計画を基に設定した 幼稚園評価の具体的な目標

評価項目に沿って、本務教員及び補助教員(非常勤)による自園及び自身の自己点検を実施することにより、また、在園児保護者への幼稚園生活に関するアンケートの結果を踏まえ、教員自らが第三者の立場に立って客観的に自己の活動を振り返り、自己評価を実施することによって自園と自身を適切に見る目を養い、本園の施設・設備や教育内容の課題を自覚し、改善に向けてそれぞれが主体的・積極的に関わり取り組んでいくことを目標とする。

4. 園としての評価項目の達成及び取組み状況

評価段階(A:よくできている、B:できている、C:あまりできていない D:全くできていない)

評価項目	評価	取組状況
I. 教育内容		
保育の計画と実施	A	聖学院みどり幼稚園では、建学の精神に基づき、中長期的な教育目標及び年度毎の保育目標を明確にしている。また、教育課程は保育目標に基づき、新教育要領の精神を踏まえ適切に編成している。具体的には、子どもの遊びをカリキュラム化し、年間をⅧ期に分け、それぞれに指導目標を定めている。2022年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮しつつも、園での生活を可能な限りコロナ禍以前に戻しつつ、園行事についても実施をすることとした。
教職員体制	A	<p>聖学院みどり幼稚園では、これまでの私学助成を受ける幼稚園から、2022年度より子ども・子育て支援新制度のうちの施設型給付を受ける幼稚園へと移行した。このことにより、2022年度に新たに3名の専任の教諭を採用することができた。また、これまでの主任教諭の定年退職に伴い、新たな主幹教諭のもとに、教員の体制を組むと共に、事務の面ではみどり幼稚園事務課として新しい事務長のもと職員体制を組むことができた。</p> <p>教職員が園の教育目標や年間保育目標を共通理解するために、本務教員については原則として毎日保育後に報告会や連絡会を行い、保育が教育要領、教育課程、園児の実態に即したものになっているかを確認し、また相互に意見を出し合うなど意思疎通を図る機会としている。さらに、補助教員やその他職員達に対しては、話し合いの内容を文書にして毎朝確認できるようにしている。</p>
指導のあり方	A	教員一人一人が、本園の環境を通して行う幼稚園教育の特質を理解し、園

		<p>児の発達の道筋を見通して計画的に環境構成を行っていきけるようにしている。そのような環境を整えた上で、本園の指導の特質として園児個人々の成長や発達の違いに十分配慮しながら自由な遊びを通しての総合的な指導を行っている。また、園児との関わりにおいて信頼関係の構築のため、園児の主体性と教員の意図とのバランスに配慮しつつ、園児一人一人が安全で心地よく過ごすことができるように工夫している。また、発達支援アドバイザーによるカンファレンスを行っており、幼児一人ひとりの発達の特性に応じた指導を深めて行っている。</p>
研修や研究	B	<p>園の教育方針や年度目標を理解し、さらには教育内容の質の向上や改善を目的として補助教員を含む全教員による園内研修や懇談会を年間数度実施した。また、教員の資質向上のために、埼玉県やさいたま市、さらには私立幼稚園協会やキリスト教保育連盟などの公的機関が開催する研修会などの研修の機会を持った。</p>
II. 地域の幼児教育センターとしての役割		
子育て支援	B	<p>子育て支援及び本園の保育への理解のために、就園前の幼児を持つ地域住民等を対象に「園庭開放」や「親子で遊ぶ会」の他、未就園児親子クラスのぐり組・ぐら組(2～3歳児、第Ⅲ期以降は入園予定者のみ)を実施し、また、必要に応じて子育て相談や子育てに関する情報の提供などを行った。以前に行なっていたたまご組(1～2歳児)は開催することができていないので、今後の再開を考えたい。</p>
預かり保育(オリーブクラス)	A	<p>2020年度よりさいたま市の「子育て支援型幼稚園」に認定されたことを受け、朝午前8時から保育開始時間前まで及び保育終了後から午後6時まで、土日祝日、園閉鎖期間を除いて原則として毎日オリーブクラスを実施している。なお、オリーブクラスは園の教育課程を特に考慮して行っている訳ではない。長年預かり保育を担当してくださるベテラン教師の他、聖学院大学より学生アルバイトやボランティアなどを受け入れている。</p>
III. 安全管理		
外部侵入者・来訪者などに対する安全対策	C	<p>本園には正門と裏門があるが、多くの保護者は自家用車で園児の送迎しているため大学駐車場がある裏門を利用するが多い。正門、裏門とも職員室及び事務室にてカメラ付インターホンで相手を確認し解錠するシステムとなっているが、それぞれの入り口が園舎より離れているため本人確認が十分にできない場合がある。また、解錠・施錠装置の経年劣化等もあり保護者等が園内に立ち入った後の施錠が十分ではない場合が時折あり、保護者には施錠の再確認をお願いしている。園舎の改築に合わせて安全なシステムを導入したい。また、不審者が侵入した場合の対応マニュアルや訓練を行う必要がある。</p>
施設・設備・園児に対する安	B	<p>園舎における老朽化がもっとも進んでいる南面と屋上の修繕工事を、施工することができた。</p>

全対策		大地震や火災など様々な災害への対策として、毎回テーマを設定して園全体の防災避難訓練を年間4回程実施しているが、今後は、回数を増やすことや、実際の状況に合わせたより綿密かつ具体的な防災計画を行うこととしたい。
衛生管理	A	学校保健法の定めに従い、校医、歯科医師、薬剤師を非常勤としてお願いし、健康診断、歯科検診、水質調査・照度調査などを定期的に行っている。
IV. 人事管理		
園の教育目標達成のための人事	A	本園では原則として、幼稚園設置基準に基づくクラス規模及び担任を配置しているが、成長や発達に課題を持ち支援を必要とする園児も各学年若干名在籍する。そのため、それぞれのクラス負荷状況に応じてクラス補助教員を配置している。但し、指導の考え方として補助教員を含む全教員が全園児の名前と個別の状況を把握し、全員が対応できるようにしており、補助教員も必ずしもクラス固定としているわけではない。その時々状況に応じて変更や入れ替えなどを行いながら、園の教育目標達成のための最善の人員配置を行っている。
教職員の雇用条件と労務管理	A	本園は学校法人聖学院(本部:東京都北区。幼稚園2園、小学校、男女それぞれの中学校・高等学校、大学・大学院)の内の一教育機関であり、人事・労務管理は学校法人聖学院の規程に従って行われている。本務教員の待遇等は人事関連諸規程及び幼稚園教員給与規程(東京都幼稚園教諭基準に準拠)に基づいており、また、産休・育休制度、退職制度なども整備されている。
教職員の健康管理	B	学校法人聖学院の就業規則及び諸規程に従い、年一回の健康診断が義務づけられている。但し、本園は幼稚園としては比較的小規模であり教職員数もそれほど多くはないため、教育目標の実現のために一人一人にかかる負担は大きいものとなっており、教職員の心身の健康管理が今後の課題である。
V. 財務管理		
予算作成及び予算管理、決算	B	本園は学校法人会計基準に基づき予算書を作成し、月次の予算管理を行っている。また、同基準に従った会計処理を行うと共に財務計算に関する書類を作成している。さらに、決算は公認会計士の監査を受け、適正であることの証明を受け監督官庁に届け出ている。2022年度より、子ども・子育て支援新制度の内、施設型給付を受ける幼稚園に移行したことにより、私学助成の時と比べると増収となった。ただし、これまで実施して来なかった修繕を行ったことにより、支出も大きくなった。
納付金算定	B	2022年度からの新制度への移行に伴い、園則における保育料等納付金の項目および「特定教育・保育の向上を図るために要する費用の別表」「特定教育・保育の提供に要する実費に係る利用者負担」の別表を整備した。特定教育・保育の質の向上を図るために要する費用に関しては、地域の他幼稚園等との比較や収支のバランス等を見ながら納付金額の見直しを行ってゆきたい。

物品購入	A	教材などの在庫は、教育方針及び当該年度の教育目標を踏まえ、種類・量共に適切に管理している。不足していた教具については、計画的に購入し、揃えて行くことができた。
VI. 評価と情報公開		
評価	B	自己評価は行っているが、園としても個人としても、年間の重点目標を定めることは行われていない。学校関係者評価は、園の点検評価結果を提示し、それに対する意見交換の形で行う必要がある(卒園生保護者、卒園生)。その他、第三者評価(外部識者、理事会、近隣住民など)は行われていない。毎年度末に実施する全保護者への「幼稚園生活アンケート」の結果も踏まえて評価を行なっていきたい。
情報公開	B	前項「自己点検・評価報告書」の他、学院全体の「事業報告書」が毎年刊行されており、本園の教育及びその他の運営の状況等についての報告、及び財務諸表が冊子として、またインターネット上に公開されている。また当該年度卒園生については、幼稚園における幼児指導要録の抄本・写しを進学した小学校に送付し、情報の共有と相互理解を図っている。 2022年度の後半より、園のfacebook ページとInstagram を立ち上げ、日々の幼稚園の活動の様子などについての情報公開を行うようにした。

5. 教員自身による自己評価結果

評価段階(A:よくできている、B:できている、C:あまりできていない D:全くできていない)

評価項目	評価	内 容
I 保育の計画性		
園の教育理念・教育目標の理解	A	教職員は、園の教育理念を理解している。また、キリスト教幼児教育についての理解を深め、園の教育理念や教育目標の実現に協力できるよう心がけている。そして、園の教育理念に基づき、教育目標について園長や主幹、他の保育者と話し合うことがある。
幼稚園教育要領の理解	A	教職員は、幼稚園教育要領を読み、または園長や主幹、保育者同士話し合ったりして理解するように努めている。
教育課程の編成	A	園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育目標を基に編成されている。教職員は、園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てている。
指導計画の作成	A	指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成している。また、幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるよう順応性のあるものとするよう心がけている。

環境の構成	A	環境の構成については、安全で清潔感のある環境を構成するよう努め、幼児が主体的にかかわりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成し、幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をしている。また、遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量に配慮して用意しており、特に2022年度には、古くなったり不足していた教具を大幅に揃えることができた。そして、楽しい雰囲気の中で安心して遊びこめる環境を構成し、幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成している。また、幼児の発想を柔軟に取り入れて、保育室の装飾や展示をしている。園地・園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、環境構成にいかすようにし、幼児の発達や生活を見通した環境の構成をしている。季節の変化に応じた環境の構成をしている。異年齢の幼児が自然に交流できるような環境の構成をしている。
II 保育のあり方、幼児への対応		
健康と安全への配慮	A	健康と安全への配慮については、朝の登園時には特に視診を大切にし、子どもの体調が悪くないかを確認するようにしている。けがや事故に気をつけ、万一発生した場合は、主幹や園長に報告し、保護者と連絡をとり、医師に見てもらうなど適切な処置を行っている。園内に危険な個所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される場合は、安全な遊び方について幼児と一緒に考えるようにしている。園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配っている。
幼児理解	A	幼児理解については、一人ひとりの幼児をよく観察すると同時に周囲にも目を配っており、幼児の話をよく聞き、幼児の思いを受けとめるようにしている。また、個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解するようにしている。そして、幼児同士のかかわりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解するようにしている。幼児たちが今、興味や関心をもっていることは何かを知るよう努め、幼児の理解のために家庭との連携をとるように努め、幼児の姿を多面的に捉えるように心がけている。
指導とかかわり	A	指導とかかわりについては、幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動するようにしており、幼児が理解しやすいような、正しい言葉を使うようにしている。また、幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしないよう気をつけている。そして、善悪の判断、思いやりなどの道徳性を培ううえでのモデルとなるように心がけている。幼児一人ひとりのありのままの姿を受け入れ、その子のよさを認めるように心がけつつ、幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるように心がけている。幼児が遊びを深めていくための適切な援助をするようにしており、幼児の年齢に応じた援助の仕方を工夫している。幼児が自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰まっているときには適切な援助をしている。幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がけている。幼児を無視したり、体罰を加えることはどのような場合もしない。
教員同士の協力・連携	A	教員同士の協力・連携については、クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉がけや対応をするように心がけている。また、クラス的环境構成などについてもお互いフランクに意見を交換し合っている。そして、幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解をするよう心がけ、他のクラスや異年

		<p>齡の幼児たちと触れ合うように、さまざまな工夫をしている。</p>
<p>III 保育者としての資質と能力</p>		
<p>専門家としての能力・姿勢・義務</p>	<p>A</p>	<p>専門家としての能力・姿勢・義務については、幼児の性格や個性を把握し、幼児の考えや感じていることを理解するようにしている。また、保護者に対し、幼児や自分の保育のことをわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くよう努めている。幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにしている。服装、髪形、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけている。職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている。園の重要書類は外部に持ち出すことはしない。締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守っている。教職員全員で一つのチームであることを自覚している。他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べるよう努めている。</p>
<p>組織の一員としてのあり方</p>	<p>A</p>	<p>組織の一員としてのあり方については、子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主幹に報告、連絡、相談をするようにしている。当番や役割による仕事は確実にやっている。園や保育者に関することについて、軽はずみに他に話さないようにしている。幼児の成長を自分の喜びと感じている。幼児と一緒に生活を創りだすことを楽しいと感じている。</p>
<p>保育の楽しみ・喜び</p>	<p>A</p>	<p>教職員として園児の成長を自分の喜びと感じ、園児と一緒に生活を創りだすことに誇りと自覚を持って教育・保育にあたっている。</p>
<p>IV 保護者への対応</p>		
<p>情報の発信と受信</p>	<p>A</p>	<p>情報の発信と受信については、保護者に個々の幼児の様子を伝える工夫をしている。保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くよう心がけている。2022年度より新たに、facebookページとInstagramによる発信も行なっている。</p>
<p>守秘義務の遵守</p>	<p>A</p>	<p>保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針に従っており、個々の幼児や保護者、家族の情報は幼稚園以外に口外することはない。</p>
<p>対応上のマナー・心構え</p>	<p>A</p>	<p>対応上のマナー・心構えについては、日常の生活において、その場にあった正しい言葉を使うようにしている。電話は、相手が見えないために誤解が生じやすいことを心に留め、簡潔にわかりやすく話すことを心がけている。保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応している。</p>
<p>クレームへの対処の仕方</p>	<p>A</p>	<p>クレームへの対処の仕方については、保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長や主幹に報告、連絡、相談をするようにしている。クレームの内容によっては教職員全体で検討し、共通理解のうえで対処するようにしている。</p>
<p>V 地域の自然や社会とのかかわり</p>		
<p>地域の自然・人々とのかか</p>	<p>B</p>	<p>地域の自然・人々とのかかわりについては、隣接する聖学院大学のチャペルでの礼拝や、クリスマスツリー点火祭の参加などがある。近隣地域への対応に関</p>

わり		しては、ご迷惑をかける可能性がある園行事等の前にはご挨拶に伺うこともあるが、焼き芋を行った際には灰が飛んで行ってしまい、後日にご挨拶にお伺いした。コロナ禍以前に毎年行っていたバザーは、みどりフェスタとして再開した。
小学校との連携	C	小学校との連携については、本園からは東京都北区の聖学院小学校への推薦制度がある。しかし基本的には地域の公立小学校へ進学する者が大半であり、園としてはそれらの小学校との連携は最重要課題の一つと考えている。そのため年長児は近隣の小学校との連携・接続プログラムに積極的に参加するなどしている。但し、2022年度に関しても、コロナ禍によりこれらのプログラムのほとんどが行うことができなかった。
子育ての支援と地域への開放	A	子育て支援や園の開放などの地域への貢献については、近隣の未就園児の親子を対象に、時間を定めて園庭を開放するなど遊びと交流の場を提供している。
VI 研修と研究		
研修・研究への意欲・態度	B	本務教員については、長期休暇期間中や水曜日の午後、土曜日などに実施される研修会や研究会等に、それぞれの保育に関する自己課題をもって積極的に参加するように努めている。また、補助教員については、研修の機会が少ない状況である。
教員としての専門性に関する研修・研究	B	教員としての資質向上のため、幼児の発達理論を学んだり、教育課題や指導計画などに関する研修や研究には多くの教員が関心を持っているものの、2022年度についてもコロナ禍によりオンライン開催となったものも多く、もっと学びへの参加の機会を確保してゆきたい。また、補助教員については、研修の機会が少ない状況である。
今日的課題に関する研修・研究	B	本園では教育的な観点から、成長や発達に課題を持つ幼児やアレルギー・自立遅れなどの幼児を一定数園児として受け入れており、そのような園児への理解と対応などについて関心を持ち、発達支援後バイザーによるカンファレンスを行い、研修などにも参加するなど、比較的積極的に取り組んでいるが、さらなる学びに取り組んでゆきたい。また、補助教員については、研修の機会が少ない状況である。

6. 幼稚園評価の総合的な評価結果

《評価項目》 A…十分達成されている B…達成されている C…取り組まれているが十分でない D…取り組みが不十分

結果	理由
A	<p>(1) 記念事業 園舎寿命を考え、法人の理解のもと、園長を中心に、「日本一の園舎」を目指す園舎改築について検討を始動しはじめた。具体的なことは、2023 年度以降に稼働することを期待している。</p> <p>(2) 新たな教育事業への取り組み 2022 年度より「子ども・子育て支援新制度」のうち、施設型給付を受ける幼稚園へと移行した。利用定員 105 名を満たされて 107 名からスタートした園児数は、年度末には 118 名となることができた。</p> <p>(3) 教育研究の充実 子どもたちの将来にとって、生きていく力となる非認知能力育成のため、「遊び」をカリキュラム化し、実践し、子どもの状況を教師が正しく判断しつつ必要な支援を行えるよう、原則として毎日保育後、報告会及び検討会を継続実施することができた。</p> <p>(4) 教育研究の整備 教員による自己啓発、保育研修などに積極的に参加するようになり、資質向上のための計画(研修会等)のもと、「さいたま市私立幼稚園協会職員研修会」や「キリスト教保育連盟の地区委員会での学び」、「ぐうたら村オンラインゼミナール」他の教育の質向上に向けて整備している。</p> <p>(5) 環境基盤の整備 園舎における老朽化がもっとも進んでいる南面と屋上の修繕工事を、新事務体制により、法人の理解のもと、施工することができた。新年度に園舎の残りの修繕を予定しているが、他の老朽化も進んでおり修繕計画を再考する可能性もある。また、複数年の予定で遊具の整備を行いはじめた。</p> <p>(6) 人事の活性化 新任の保育者を 3 名採用(うち 2 名は新卒)したことにより各担任体制が整備された。事務室も本務事務職員 1 名以外に、事務長を配置し、新制度の複雑な事務に対応することができた。教職員共に力を合わせて、園の収益、環境整備(園舎中規模修繕、教具の充実、園バス運行の ICT 化など)を推し進めることができた。</p> <p>(7) 国際連携 外国籍のご家庭の園児、国際結婚をされているご家庭の園児を複数名受け入れている。国籍に捉われず、一人ひとりが大事な人格であることを思い、その子ども一人ひとりに必要な対応を心がけている(コミュニケーションに仲介が必要、全体の理解をよりスムーズにできるように援助 etc)年中・長は週に一度の英語クラスを開催。英語クラブも有。</p> <p>(8) 学生生徒・教職員等の活躍</p>

	<p>預かり保育(オリーブ)においては、聖学院大学児童学科と共同の取り組みとして、学生スタッフ(アルバイト)の受け入れを通年行うことができた。その他、児童学科と連携して学生インターンシップなども受け入れを行っている。</p> <p>(9) その他</p> <p>収入:私学助成の時(2021年度)の収入と比べて、新制度移行後(2022年度)は、その他収入を含めて、前年度より増収となった。</p>
--	--

7. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み方法
幼児教育のさらなる充実	<p>幼児教育のさらなる充実に向けて、2023年度においては、ぐうたら村（持続可能な社会とこれからの保育や幼児教育を結んで考える学びの場）での研修を予定している。また、聖学院大学の子ども教育学科とのさらなる連携も計画している。これらの学びや連携を通して、保育者のさらなるスキルアップをはかりつつ、園児のご家庭や地域の方々との関わりをより深めつつ、幼児教育のさらなる充実を実現して行きたい。満三歳児クラスの受け入れの仕方についても、2023年度を通して検討して行くこととしたい。</p>
幼稚園収支の改善	<p>幼稚園収支の改善に向けては、子ども・子育て支援新制度の内、施設型給付を受ける幼稚園に移行したことにより大幅な改善がなされた。しかしながら、園舎改築が実現するまでの施設設備の維持管理のために、大きな予算が必要になることも予想されている。中長期的な計画を立てつつ、改善してゆきたい。</p>
施設・設備の改善および安全対策への取り組み	<p>「日本一の園舎」「日本一の園庭」の実現を夢見つつ、現在できる範囲での現園舎およびプレイルームの維持および改善をはかってゆきたい。また、裏門入り口の門扉や園庭を囲うフェンスの劣化が見られるので、補修をしてゆきたい。また、園庭遊具の点検・整備を行なってゆきたい。</p>

8. 幼稚園関係者による評価

課 題	具体的な感想・意見・提案
2023年度在園児保護者(10名(2023年度クラス委員))	
運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標、年間保育目標に向かい、全ての教職員が真摯に取り組んで下さり感謝の気持ちでいっぱいである。 ・園として高い目標を持ち、自分たちの保育に誇りを持って取り組んでいるのがすばらしいと思う。 ・聖学院みどり幼稚園の教育目標を改めてじっくり読ませて頂き、目標を目指した保育がしっかりとできているなど思った。 ・教育目標、保育目標を改めて見ることが出来、計画・評価し取り組んで頂けていることに感謝し、また来年度以降の保育・環境整備等が楽しみになり、期待している。
保育者	<ul style="list-style-type: none"> ・どの子どもも先生方に心を開いて信頼している様子で、保護者としては本当にうれしい気持ちになる。 ・先生同士の連携がとれていて、園全体で子どもたち 1 人 1 人を見てくれているという安心感があつた。 ・先生方全員が子どもたちのことを考え、尊重してくれる幼稚園だと思う。 ・2023 年度については、コロナを経て、新しい取り組みを次々とスタートさせた事で、教職員のみなさんや関わる保護者の負担は大きかったと感じる。その代わりに、始めた取り組みが新しい園の魅力として大きい動力になっていくだろうという予感に満ちた1年だった。 ・聖学院みどり幼稚園では担任の先生はもちろん、他のどの先生も「自分の子どものことを良く知って下さっている」という安心感がある。子ども自身も他の学年クラス関係なくお友だちのお名前を知っていたり、遊んでいる場面を見ることも多く、本当に園全体で交流ができていたのだなと実感することができた。 ・園児一人一人の個性や特性を各先生方が理解をした上で、しっかりと向き合い、対応している姿を、日々とてもすばらしいと思っている。 ・安全面について気になる所は、危ないことをした時に、声をかけるのは統一した方がいいのかなと思う。園庭の遊具になわとびやフラフープを持って登って遊んでいるのを注意する先生と、なにも声かけをしない先生がいるのが気になった。園児の手が届かない高さに鍵をつけたり、ハンドルの高さをかえたりと、できる範囲での保育中の園児への安全の配慮が他園と比べると足りないと感じており、改善されるとよいと思っている。

園庭、施設

- ・園の自然を生かし、子供達が自然の恵みを感じられるような保育も魅力の一つだと思う。
- ・外部からの安全対策については、門の施錠が自転車を押しながらだと確認が不十分なこともあるので、しっかりと確認していきたい。
- ・園の設備の老朽化に関して、遊具もおもちゃも含めて、安心、安全であるよう、フェスタでの売上金をぜひ使って欲しい。
- ・ブランコ横の小屋が風で飛んでしまったのは、子どもがいないタイミングだったのでよかったが、もう一つの小屋の点検やお手製の設備に関しては細めな点検が必要かと思う。
- ・先日、強風で小屋が倒れた件が心配。他にも古い小屋があるし、設備全体を見直した方がよいのではと思った。
- ・正門・裏門のインターホンの解錠時、よく確認の上、解錠頂きたい。早過ぎる様に思う。周囲までカメラ付インターホンで確認頂くまで待てるので、安全第一でお願いしたい。
- ・門に警備員の配置が理想だが、登園と降園時は門の近くに職員の方による見守りや、園児が少なくても園庭で遊んでいる時は、目が届きにくい門側に職員による、見守りを徹底頂けるとより安心できるように思う。
- ・自転車置き場は電動自転車が倒れると大変重いので、進入しない約束もあると安心かもしれない。
- ・正門のストッパーを安全で使い易い物にして頂きたいです(コンクリートブロックや石でない物)。
- ・お庭で育つ会などで作った物について、出っばっているクギや、トゲが刺さりそうな木の側面など、未就園児からも、安全にケガなく過ごせる様に点検・改善頂けると安心である。
- ・保育室のガラスについて、廊下側も園庭側も、ガラス飛散防止フィルムを貼って、ガラスの破損によるケガを防いで頂くことを望む。建物は古くても安心なアピールポイントになる。
- ・園庭フェンスは、ウサギの脱走やネコの進入が無い様、また侵入者を防ぐ物に改善を期待する。
- ・市内 15 カ所程、幼稚園を見学したが、水道蛇口の水栓は、自動水栓またはレバー式(肘で扱える)で、感染症対策がされており、みどり幼稚園の様な洗う前後で同じ場所を触れなくてはいけないものは見られなかった。毎年流行する胃腸炎ほか感染症を予防し、園児が衛生的な環境で健やかに過ごせる様、早急に改善頂けると安心である。レバー式(肘で扱える)タイプは安価で交換も簡単と伺っている。幼稚園側の説明で、感染症対策としてアピールしている園がいくつもあった。トイレや水道は見学時、確認するポイントでもある。

保護者

- ・園行事等、保護者の参加が任意になったものが多く、園との関わりを持とうとする保護者とそうでない保護者の2極化が気になっている。
- ・理想とする保育を理解し、賛同してくれる保護者や近隣住民と交流し、「閉じた理想郷」でなく開かれた地域に愛される園になってほしいと思う(※まだまだこの教育方針はマイナーであり誤解している人も多い為)。
- ・クラス委員を例会で決めるという方法について、先日のクラス委員の会議で「委員になりたくないから、新年中の初回の例会をお休みする人が多いかも」という懸念があった(だから園だよりには「例会で決める」と記載しない方がよかったとの意見も)。例会を休めば委員にはならないですむ。というのは確かに不公平なので、どうにかならないものか…。
- ・以前に在園させていた時に一番負担に感じたのは、バザーだった。今年はフェスタに参加する“度合い”を自分で決められるようになって助かった。
- ・クラス委員会での先生のお話から、9年前と比べて、保護者の幼稚園への関わり方がこれからは自由で柔軟になっていきそうだと思った。幼稚園の老朽化対策など、今まで不便や不安を感じながら我慢していたようなことも、これからは保護者からも意見を出し合あって、幼稚園の環境を良くしていけたらいいと思う。ホワイトボードを設置する案が出たが、保護者からいつでも個人的に幼稚園に意見を出せるように“ご意見箱”を設置するのはいかがか。

その他

- ・以前に海外から家族で帰国し、みどり幼稚園に年度途中から入園させて頂いた。当初、他園の入園手続きを進めていたが、その園の都合で通園を開始する日が何度か先延ばしにされた為、下の子もみどり幼稚園に入園させて頂くことにした。みどり幼稚園は、直ぐに入園を引き受けて下さり、面接に伺った翌日から通園させてくださった。当時、妊娠しており、子どもを連れて外遊びなども大変な状況だったので、みどり幼稚園の対応の早さにとても感謝した。この時も、大人の都合ではなく、子どもを優先する、みどり幼稚園の方針の違いがあったのではないかと思う。今は、子どもたちを全員みどり幼稚園に通わせることができ感謝している。入園児が減っている中、みどり幼稚園も従来通りのやり方を変えていく必要があるのだと思う。みどり幼稚園の為に保護者と先生方が知恵を出し合っていきたい。
- ・二人の子供がお世話になって、みどり幼稚園の保育の方針は素晴らしかったと感じている。しかし、年々入園児数が減ってきているようで大変残念である。なぜ減っているのか分析し、もっと多くのお子さんが入園されるといいなと思う。
- ・バスアプリは「その日の」到着時間がわかること、オリーブクラス、給食の申し込みなどができるようになったのはとても便利になったと思う。その反面、主にバス利用時に不具合(?)で混乱することがしばしばあったので、そういったことが減るといいと思う。
- ・不審者対応について、避難訓練の中に取り入れて、大人だけ → 子どもも含めて のように段階をふみつつ、合言葉や鍵のかかる部屋に何人くらい入れるのかなどのシミュレーションをしておいた方が良いかも知れない。
- ・幼稚園からのお知らせに誤字や脱字が多いのが気になる。外国籍の保護者もいるので、簡潔な文章で配信してほしい。
- ・例会が毎回長いので、出席するのが負担である。手紙で伝えられる内容は手紙で配信して、例会の時間を長くても1時間にまとめて欲しい。未就園児の子供がいた時は、後ろで子どもの相手をしながら聞くことになるので、出席しても結局内容をきちんと理解できなかった。子どもを1時間半待たせるのも大変だった。椅子に座っているのも、長時間だと体が痛くなってしまう。
- ・来年度から給食を注文できる日が増えるとのことであるが、値段が高く、経済的に負担を感じる。給食自体も、「子どもにとって良い食べ物(栄養的、味、素材など)」なのか分からない。食べ残す子ども多いと聞くので、自分が作ったお弁当の方が良いかもしれない、と思うと、利用をためらう。給食会社の変更や試食会など検討していただければと思う。

《学校関係者評価について》今回は 2023 年度のクラス委員の方に学校関係者評価委員となっていただきました。また、頂きました評価については、原文のままではなく、内容をまとめて表記させていただいています。